



すぎもと通信

2014.12.17

＜日本ヘルスケア学会の定期ミーティングに参加して＞

2014年11月23日、24日

虫歯予防、歯周病予防をメインとした、日本ヘルスケア歯科学会の定期ミーティングに参加してきました。今回は、高齢者の患者さんの歯科治療、口腔ケア、メンテナンスについての現在の問題点、これからの課題について学ぶことができました。
(神戸三宮 ラッセルホールにて)



テーマは「高齢化社会における高齢の患者さんの歯科治療にどのようにかかわるべきか？」

超高齢化社会を迎え、歯科を取り巻く環境も著しく様変わりしてきました。その中で「その人らしい人生」をささえる歯科医療、口腔ケアを実践できるように加齢における「こころとからだの変化」を知り、高齢者歯科治療の基礎知識と実践されている口腔ケアメンテナンスの症例発表を通して、通院して頂ける高齢の患者さんだけでなく通院が困難になった在宅、施設入所、入院中の患者さんに対してのかかわり方について医療、介護の流れを意識しながら、地域や施設・病院などとの連携の重要性についてディスカッションも含めながら学びました。

このミーティングを通し様々な学びがありました。中でも「口腔はすべての臓器に繋がる場所」であり、歯科治療・口腔ケアにより肺炎などの病気の予防に繋がることから「健康な口腔を獲得し、維持し続けて頂くこと」の大切さを実感しました。

その為に、歯科医院が取り組むべきことは、通院してもらえない患者さんだけに限らず通院できない患者さんに対しても、地域、病院、施設との連携をとりながら継続的な口腔ケアをしていくことだと考えます。

現在も院長は兵庫医大篠山医療センターを中心とした往診衛生士は「地域歯科衛生活動」を中心とした口腔ケアの啓発を含めた実践を行っていますが今回このミーティングに参加する事で、今後より高度な専門性を有した知識、実践が必要とされる事を再認識する事となりました。その為にも、院内においてはスタッフ一丸となり、口腔ケアのレベルアップに取り組むそこで得た技術、知識を通院出来ない患者さんに還元させて頂くことを一つの目標とします。